

「私たち自治会が目指すもの」

今、自治会が抱えている課題は「防災」と「福祉」であると思います。災害時にはいち早く人命救助が必要ですし、福祉の面では日々の支援が必要になります。これら課題解決に向けて、向こう三軒両隣、人と人とのつながりや絆をもって、少しずつ改革していくことが大事だと思います。そして、自治会として「安全、安心なまち」、「住み続けられるまち」を目指していけたらと思います。

私自身も学区の会長という立場で受講生の皆さんの発表を聞かせてもらいましたが、どの事例も非常に参考になりました。ありがとうございました。



地域デザインカレッジ学長 田辺信宏 静岡市長

「9地区の発表を聞いて」

発表全体で私が感じたのは、コミュニティ意識の希薄化の中で、自治会の役員の方々の悪戦苦闘している姿であり、一部の人に負担が集中していることです。市の職員と、自治会の皆さんとの顔の見える関係づくりをしていく必要性を強く感じました。

受講生の皆さんの発表を聞いて、学長としては、この地域デザインカレッジを創設してよかったという達成感を得ております。9地区の成果報告を聞かせていただき、ありがとうございました。



修了生の声

お互いの率直な意見を聞けて良かった。

社会構造は変わっている。自治会も変わる必要がある。

現状を数値化などで見える化し、なんとなくではなくて、実感として確認・把握していくことの大切さを学んだ。



今回の講座を通じて、改めて地域の課題、取り組みの必要性を感じました。

自治会によって様々な課題があり、こんなふうな解決方法があるんだと、大変参考になった。

自治会の課題を真剣に考えることができた。他の自治会の事情を知ることができた。

「地域デザインカレッジ」とは… 地域の「これから」を考える**実践型連続講座**です。

令和3年度(2021年度)から、「自治会・町内会」をテーマに据え、自治会・町内会に携わる皆さんの活動の一助となるようなプログラムで実施しています。

ご自身が住む地域の課題解決に向けて、一緒に取り組んでみませんか？

地域デザインカレッジ2022（自治会・町内会編） 実施報告【発行：令和5年3月】

静岡市 市民局 生涯学習推進課（人づくり事業推進係）

お問い合わせ ☎054-221-1207 ✉ shougaigakushuu@city.shizuoka.lg.jp

地域デザインカレッジ2022

実施報告（自治会・町内会 編）



「地域デザインカレッジ2022（自治会・町内会 編）」の軌跡

- ・自治会・町内会活動に関わっている方が、地域の現状を正確に把握し、地域住民とともに解決策に取り組むためのステップを学ぶ、全5回の講座（基礎講座1回、実践講座4回）を実施しました。
- ・実践講座を受講した9地区10名の方が、およそ5か月にわたって地域と向き合い、講座以外の時間も使って取り組みました。その成果を、講座最終回の公開報告会にて発表しました。

基礎講座（座学）



実践講座（ワーク）



実践講座（課題の共有）



令和4年12月24日 アイセル21にて公開報告会を実施！

このリーフレットでは、受講生の皆さんの報告内容をご紹介します。ぜひご覧ください。



1 住民によるより良い拠点づくり 【小黑2丁目上】長坂 昇

- 小黑2丁目上町内会には専用の公民館がなく、集会時の不便さや住民同士の交流の場がないことによる一体感の欠如を感じており、取り組みを決意。
- 静岡市役所の市民自治推進課へ補助制度の相談をして、それをもとに役員会で検討。新規設立だけではなく賃貸契約でも市の補助制度を利用できることから、賃貸契約の方向で補助制度の申請を進めた。
- 今後は、住民と公民館の利用方法を整理しながら、拠点づくりを進めていく。



2 自治会で扱う書類等のパソコンによる作成・管理の効率化【伊佐布】朝倉 弘幸

- 自治会運営のための書類や資料が少ない（または無い）ことに課題を感じ、年間行事の予定表、行事の手順書、各班の範囲をまとめた自治会地図などをパソコンで作成し、次年度に確実に引き継げるような体制づくりを進めた。
- また、地区内に設置されている消火器の使用期限を一覧にまとめることで、次の更新時期が一目で分かるようになり、管理の効率化にも貢献した。
- 今後は過年度の書類をパソコンでまとめるなど、書類を充実させていく。



3 地域と連携した高齢独居世帯への対応について 【大谷駿河台】中村 彰男

- 高齢独居世帯が増加しており、孤独死も発生している現状に危機感を感じ、自治会長として独居高齢者の見守りや顔を合わせる機会の創出を決意。
- コロナ禍で室内の企画が難しいことから、住民有志の「ラジオ体操の会」を自治会として支援していく方向で活動を進めた。
- 今後は「ラジオ体操の会」以外の企画の支援や、地域包括支援センターなどの地域組織と連携した見守り活動にも取り組んでいく。



4 自治会各種役員のスムーズな選出に向けて【丸子新田】長谷川 秀厚・藤澤 弘子

- 近年、組内の高齢化による役員選出の困窮を申し出る組が増加したことから、全組を対象にアンケート調査を実施。高齢化等の実態を把握した。
- 高齢化の進んでいる組について、役員選出の免除ができないか検討。免除の条件を役員会で検討し、条件に該当する組にはヒアリングを実施。条件に該当する8組中6組について、役員選出の免除について話が進んだ。
- 5年ごとに見直し、今後も時代に合わせた役員選出方法を検討していく。



5 自治会活動の効率化に向けて 【秋山町】池田 直久

- 今年度から自治会長になり、会長職へ仕事が一極集中していることを実感。
- まずはカレンダーへの年間行事の落とし込みと、定例班長会の内容を過去5年分一覧化することにより、会長職務のボリューム感を把握。会長職でなくてもできる仕事を洗い出すとともに、職務分掌を作成し、職務の分散を進めた。
- みんなでやる、気楽にやる、そして何より楽しくやる！をモットーに、今後もサラリーマンでも自治会長が担えるような仕組み作りに取り組んでいく。



6 羽鳥自治会による 水害から命や財産を守る取り組み 【羽鳥】小畑 吉弘

- 台風15号の被害状況を各地区長等から聞き取り、水害対策の必要性を実感。
- まずはWebから入手可能な情報を整理した。大雨の際の河川水位、土砂災害危険度、時間雨量の確認方法として、国交省「川の防災情報」、気象庁「キキクル」、静岡県「SIPOS-RADAR」が使えることを把握した。
- 今後は、これらWeb情報の閲覧方法を回覧で周知していく。また、久住谷川の浸水マップの作成、マイタイムラインの作成などにも取り組んでいく。



7 安心して暮らせるまちを目指して 【新富町3丁目】望月 克則

- 自治会として防災や災害への備えが弱いと感じており、住民名簿の更新から始めた。組ごとのExcel表に住民の名前を入れると、名簿や自治会地図が自動更新される仕組みを構築。地図には消火器や防犯灯の位置も掲載した。
- また、自治会役員のLINEグループを作成したり、従来の紙回覧版に加えてLINE回覧板も作成。試験運用まで進めた。
- 今後も住民の声を聞き、名簿や自治会地図、LINEグループを充実させていく。



8 第1分団の地域特性に合わせた消防団活動の見直し 【第1分団】鈴木 宏明

- 消防団 第1分団の団員不足に課題を感じ、アンケートにて現状を把握した。
- 第1分団の属する自治会・町内会長を対象にしたアンケートからは、団員増加を希望する声や、団員増加のための様々なアイデアを得ることができた。また第1分団の団員を対象としたアンケートでは、職場の理解が得られないこと、時間が拘束されることが課題であると分かった。
- 今後は仮入団制の導入検討、自主防災組織との連携、広報活動に取り組む。



9 水害に対する住民の危機管理意識の向上 【広野】板倉 直文

- 町内に丸子川が流れており、水害に対する住民の危機管理意識の向上をテーマとした。まずは静岡市作成の「防災情報マップ」から町内の浸水情報を抽出。台風15号時の浸水状況を重ね合わせ、違いを見える化した。
- この浸水情報に加え、丸子川の水門の開閉、河川の水位の確認方法などをまとめた「広野町内会版 浸水・洪水資料(仮)」作成まで進んだ。
- 今後は資料の改訂や、模擬防災訓練の実施も検討している。



講師紹介

里山くらしLABO
池田水穂子さん 河村将雄さん



2015年設立。静岡市の中山間地域で人口減少に対応するコミュニティづくりを行う。「第8回地域再生大賞」において特別賞を受賞。2018年から「地域デザインカレッジ」講師を務める。

IIHOE [人と組織と地球のための国際研究所] 代表者兼
ソシオ・マネジメント編集発行人 川北秀人さん



京都大学卒業後、(株)リクルート、NGO代表等を経て、IIHOEを設立。NPO、市民団体、行政との協働の基盤づくりを進めている。2012～17年、「地域デザインカレッジ」コーディネーターを務めた。

